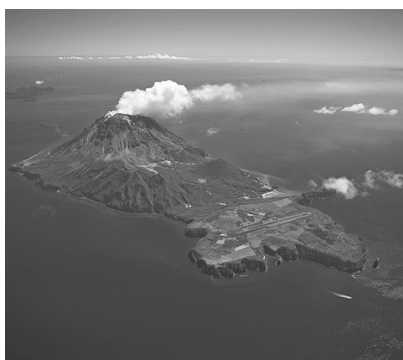


## 変わる教育委員会

《第602回》

### 三島村は日本の保健室③

鹿児島県・三島村教育委員会  
教育長 室之園晃徳



三島村の真ん中の島「硫黄島」。  
火山と伝説に彩られた島。

# オンラインワンの学び

## 〇〇ならではの教育

鹿児島県には、大小様々な離島があり、そこには200校余りの小中学校が存在する。その多くは小規模校であるが、児童生徒数の減少は離島に限ったこ

とではなく、県本土も含めて地方の抱える共通した大きな問題となっている。そのため多くの町村が、少人数指導によるきめ細かな教育や特色ある教育活動を「〇〇ならではの教育」としてアピールし、山海留学制度を推進することによって学校や地域の活性化を図ろうとしており、鹿児島県の山海留學生の受入人数は全国で最も多い。

それぞれの地域のユニークな特色がネーミングにも生かされている。例を挙げると、ウミネコ留学、ほしぞら留学、宇宙留学、かめんこ留学など、名前から地域の特色が伝わってくる。各地域ならではの各地域でしか触れることのできない「ひと・もの・こと」を学習素材として積極的に取り入れる、つまり地域の教育力を発掘し活用することは、様々な学習効果を発揮し学びを豊かにする。

## 三島の個性を強みに

我が三島村は「しおかせ留学」と銘打って取り組み、他がマネできない個性をさらに強みとして進化できるよう努力している。例えば26年間続いているアフリカの民族打楽器「ジャンベ」の演奏やギニア国との交流。また、義務教育学校に再編成した際、小中一貫で学ぶ教科として「地球（ジオ）科」を創設した。三島村が日本ジオパークに登録されていることを最大限に生かし、環境教育、SDGs、防災

教育、コミュニケーション教育などを通して、問題解決能力の育成や自己の生き方の自覚を深める学習を展開している。

そして、特色ある教育としてさらに力を注いでいるのが遠隔教育システムである。オンラインでつながることで学習の可動域が大きく広がった。かつては大型の専用機器が必要でコストも高く、使用場所も限定されているというイメージがあり、財政状況の厳しい村では容易に取り組めないという先入観があった。しかし、現在はネット環境とパソコン、タブレット端末などがあればシンプルにオンライン授業をすることができると。これまで交通事情により、島と島との交流はできない状況があったが、気軽に「遠隔交流学習」や「遠隔合同学習」ができるようになり、多様な学びはもちろんだこと、4つの学校の絆も深まるという効果も感じている。

ハンディの多い離島の村に興味をもってもらうためには、魅力的で個性的な教育が必要だ。